

第1回 尼崎市総合計画等特別委員会意見

(都市像)

- ・構想で示す将来の姿は、他都市に置き換えても通用するものであり、尼崎の実状が反映されていないため、一言で尼崎市の目指すべき方向性がわかる都市像を必ず示していく方向での検討が必要である。

(総合計画策定の考え方)

- ・1ページの「これまでの総合計画と尼崎市を取り巻く状況」は、一般的な話だけで、本市の生活保護率や、扶助費の使途などもわからない。もっと尼崎市民のおかれている状況が見える内容にする必要がある。
- ・総合計画は、市の最上位計画であるため、問題点をしっかりと抽出したうえで、市民に分かるような表現を用いて、分かりやすい形で市民に示す必要がある。
- ・現総合計画に基づいて複数の駅前再開発を進めてきたが、その一方で、学校耐震化への取組が遅れたことが、今となっては重荷になっている。このような現在の総合計画に対する反省等を新たな総合計画に盛り込む必要がある。
- ・都市間競争の考え方が大事になってくる。市外の人に対して発信していける本市の魅力づくりについて、もう少し具体的に新たな総合計画に盛り込む必要がある。

(各主体の役割)

- ・本当の自立したまちを作っていくためには、市民自らが解決すべき問題や責任を負わなければならないこともあることから、市民としての責任や役割を明確にすべきである。また、自立した市民を創出できるような視点を必ず入れる必要がある。
- ・地方自治法第2条で規定されている「住民の福祉の増進に努める」という地方自治体の責務をしっかりと行政が果たしていくことを明記する必要がある。

(計画の推進)

- ・新たに施策評価を導入するにあたっては、具体的な進め方や方法等を示す必要がある。
- ・行財政改革を新たな総合計画を実現する手段として位置づけ、その関係性を示す必要がある。
- ・「財政状況が厳しいため、総合計画を棚上げする。」というようなことにならないように計画づくりを進める必要がある。
- ・現在ある部門別計画と新たな総合計画を連携させていくことが今後の課題である。

(地域)

- ・「地域」という言葉は、人によって、自治会単位、小学校区など捉え方が異なり、漠然としすぎている。市民のイメージに任せるだけではなく、市として単位を示していく方が、市民にとってもわかりやすいのではないか。
- ・尼崎市の北部と南部では風土も異なるため、それぞれの地域の特性を生かしたまちづくりを示すことも大事である。

以上